

薬学系大学を卒業予定の方、卒業された方へ

公益財団法人 日本中毒情報センターと一緒に働きませんか？

公益財団法人日本中毒情報センターでは、化学物質に起因する**急性中毒**について**情報収集・整備、情報提供**等を行っています。同様の機関は先進各国にあり、**poison information center**と呼ばれていますが、**当法人は日本国内で唯一の機関**です。1986年に厚生大臣認可の財団法人として設立、2012年4月には、その高い公益性を評価されて内閣総理大臣より公益認定を受け、公益財団法人に移行しました。当法人の代表は救急医療を専門とする医師ですが、中毒110番の業務は薬剤師が担当しています。

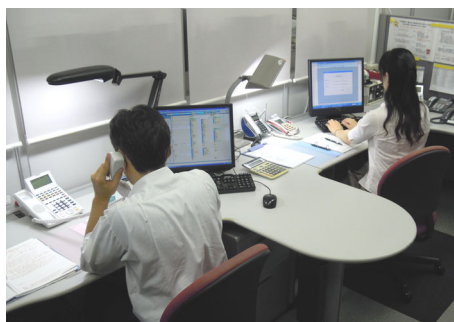
中毒110番で私たちは「中毒情報プロフェッショナル」として、**家庭内の誤飲・誤食等の身近な事故から自殺企図による過量服薬、工場等の集団災害や化学物質によるテロ等の危機管理**まで、幅広い分野において活動を行い、薬学を通して国民の健康・医療に貢献しています。小さな組織ですが、一般の方に対する基本的なアドバイスから、医師に対する専門的な情報の提供により救命医療に貢献する等、**さまざまな業務を経験することができ、職員一人一人に活躍する機会**があります。**薬学で学んだ知識を生かし、更に発展することができるやりがいのある職場**です。

■ 業務内容

業務は多岐にわたり、いずれも「日本中毒情報センターならでは」の業務です。

- ・ 「中毒110番」業務（急性中毒事故発生時の医療従事者や一般の方への電話による情報提供）
- ・ 家庭用品、医薬品、農薬、工業用品などの各種製品に関する情報の収集とデータベースの整備
- ・ 国内や海外の中毒関連の文献等による中毒情報収集と整備
- ・ 中毒に関する統計の作成、医療機関から提供を受けた中毒症例の収集と解析
- ・ 行政機関との協力・連携（厚生労働省、消費者庁等）
- ・ 啓発教育活動（医療従事者、一般の方、保健所・消防学校等）
- ・ 医薬品安全性情報の提供（製薬企業からの受託業務）
- ・ 学術調査、学会活動（日本中毒学会、日本救急医学会等）、執筆活動等

「中毒 110 番」は、家庭用品や医薬品、農薬、動植物の毒などの化学物質によって起こる急性中毒について電話による情報提供を行っています。実際に事故が発生した場合に限定し、365日24時間、一般の方や医師をはじめとする医療従事者からの問い合わせに対して、薬剤師が直接対応しています。年間3万件（1日約100件）程度の情報を提供しており、設立以来累積150万件以上の実績があります。



■ 日本中毒情報センターでできること

- ・ 「たばこや洗剤からサリンまで」、守備範囲の広い職場です。医薬品はもちろん、農薬、家庭用品、工業用品、自然毒などを対象としており、薬学・化学の知識を幅広く活用できます。
- ・ 一般の方や医療従事者への情報提供を通じ、医療或いは救命に直接貢献していることを実感できます。シフト勤務もあり、楽な職場ではありませんが、ひとつひとつの案件に真摯に対応することで、充実感を得ることができます。
- ・ 資料整備や情報提供を通じて、最新の医療情報や学術情報、製品情報に触れることができます。自分達で独自の中毒情報を作り上げていくことで、達成感を得ることができます。
- ・ 製品情報の収集や事故情報のフィードバックを通じ、製品を製造・輸入・販売する事業者や事業者団体とも日常的に情報交換しています。中毒情報センターで収集した事故情報が、製品改良や事業者からの注意喚起に直接つながることもあります。
- ・ 各省庁への資料提供や各種委員などの立場で、行政に直接かかわる機会もあります。
- ・ 一般の方や医療従事者、関連機関向けの講演、医師や薬学生を対象とした研修も積極的に行なっており、若手職員も直接かかわる機会が少なくありません。
- ・ 救急医を交えた勉強会なども定期的に行なわれ、組織全体のレベルアップを常に目指しています。
- ・ 学術的な調査・研究も実施しています。独自に収集した中毒事例に関するデータを基に、新たな知見を自らの手で見つけて中毒の予防や治療に関して提案することも夢ではありません。
- ・ 学会発表、論文投稿、原稿執筆も積極的に行なっています。日本中毒学会の「認定クリニカル・トキシコロジスト」の認定を受けることもできます。

■ こんな方はぜひ中毒情報センターへ

- ・ 中毒、特に臨床中毒に興味のある方。
学生時代に中毒学を特別に学んでいなくても心配はありません。大半の職員は就職後に専門知識を習得しています。
- ・ 情報提供・情報発信の立場で、自ら積極的に動いて医療に直接貢献したい方。
30年以上の実績のある情報提供や情報整備はもちろん、事故防止のための情報発信も期待される業務です。何事にも興味を持ってチャレンジできる人材を期待します。
- ・ 薬学をはじめとする幅広い化学の知識を活用したい方。

■ お問い合わせ

事業所である「中毒 110 番」はつくば（茨城県つくば市）と大阪（大阪府箕面市）の2カ所にあり、見学は随時受け付けております。詳細は下記にお尋ねください。

公益財団法人 日本中毒情報センター 本部事務局 029-856-3566